「三重県ひきこもり支援推進計画」（仮称）の基本的な考え方

資料２

計画策定の趣旨

〇ひきこもりは「誰にでも起こりうる」状態像
〇いじめ、不登校、障がい、進学や就職の失敗、
　人間関係の悩み、家庭環境等様々な事情が関係
〇少子高齢化等社会構造の変化、価値観の変化
➡複雑化・複合化、長期化・高年齢化（8050問題等）
〇実態把握が不十分、社会資源の不足
〇新型コロナウイルス感染症の影響➡一層深刻化
〇市町「重層的支援体制整備事業」の創設（Ｒ３）

ひきこもり支援に係る課題

〇相談支援の充実・強化等
〇相談支援から社会参加等への段階的・継続的支援
〇社会資源の活用と整備、包括的な支援体制づくり
〇ひきこもりに関する理解促進
〇多様な担い手の育成・確保
〇ひきこもり状態を長期化させないための対応
〇新型コロナウイルス感染症への対応

将来のめざす社会像

誰もが社会から孤立することなく、ありのままの自分が認められ、いつでも小休止でき、多様な生き方を選択し、希望をもって安心して暮らせる社会

基本的な取組の方向性

〇情報発信・普及啓発
〇対象者の早期発見・状況把握
〇家族支援
〇当事者支援
〇社会参加支援
〇多様な担い手の育成・確保

施策展開にあたって重視すべき視点

２つのアプローチが車の両輪

① 「課題解決型」支援
“つながり”を大切にする「伴走型」の継続的な支援

②アウトリーチ（訪問型）支援

③ひきこもり状態を長期化させない

④ＤＸの推進

⑤「専門的支援」と「側面支援」